



写真-4 微小貝さがし (2020)

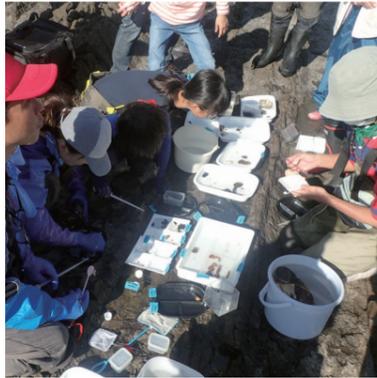


写真-5 大阪湾ウミウシ観察会 (2020)



写真-6 team.虹鯉「成ヶ島ツアー」 (2020)

スタートしました。これまではインストラクターが中心でしたが、半分以上のスタッフがウミウシつながりで集まり、2018年には月1回の観察会を実施できる体制が整いました。季節によってみられるウミウシが変化しますので、真冬に冬のウミウシの観察会というのは全国でもここだけだと思いますが、それでもある程度の参加者が集まるようになりました。観察会で明らかになったウミウシの生息状況は、大阪湾のウミウシ類の研究にも寄与しており、2021年度には北詰美加さんを中心に水産無脊椎動物研究所の研究助成を受けています。

長松海岸自然観察会

ウミウシ観察会では一年中観察可能な加太の城ヶ崎がメインフィールドですが、それでも春の磯観察は定員オーバーとなり、たくさんのお断りすることになります。受け入れるためには観察会の回数を増やすしかないと考え、岬町の長松海岸での地域観察会グループとして2018年に「長松海岸自然観察会」を立ち上げました。現在のスタッフはウミウシ観察会との掛け持ちですが、ここでは2回目の方をサポート参加者と呼び、参加費

100円として、初めての参加者をサポートしてもらいます。いまだに大阪府での初記録種が見つかることも多く、何度も通ってじっくり観察することの意義を感じています。

チーム 虹鯉

長松と同様にウミウシから派生した活動で、2019年に話題になった海洋プラスチック問題に対応するため、瀬戸内オリーブ基金の助成を受けて、成ヶ島でゴミと生き物を観察する「成ヶ島ツアー」などを実施しました。2021年には、LOVE-BLUE助成金が決まり、講演会などに活動を広げていきます。また海系の各観察会にお邪魔して、ゴミ拾いや紙芝居など、少しでも時間をもらうような取り組みを試行しています。

グループを増やすことへのこだわり

「海の観察会」でスタッフが増えた時期に、観察会の回数を増やそうと努力したのですが、毎月の下見と本番で手一杯で、年8回を超えることは難しかったです。またそのうちスタッフの数も減ってしまい、大きなグループとなることはありませんでした。観察会を増やすために、グループを大きくするのではなく、グループの数を増やすことでこれに

成功したと思います。小さなグループがたくさんあり、それぞれが身の丈に応じた回数の観察会を実施することで、結果的にたくさんの観察会を開催でき、お断りすることが少なくなりました。この考え方は協会全体に応用され、中期計画ではグループを大きくしたり長続きさせたりすることよりも新たにグループを作って活動を活性化することを重視しています（とはいえ、なかなか思ったように増えるものではありませんが）。

おわりに

当時25歳だった私は50歳。25年間で実施した観察会は400回くらい。本当にたくさんの仲間に関わっていただきました。参加者20人としてやっと8,000人。海遊館のお客さん1日分にもなりません。一人でできることはこの程度ですが、参加して下さる一人ひとりに、生き物のおもしろさ、素晴らしさ、尊さを伝え続けたいです。またスタッフみんなが楽しく、学びながら活動できるように、さらに観察会を増やす仕組みづくりに力を入れたいです。まだまだ観察会は足りていません。海を伝える活動に、ぜひご参加ください。

報告

2021年3月総会型理事会で 2021年度事業計画書・収支予算案を承認

文 木村 進(事務局)

保全協会は、2021年3月18日(金)午後7時より、総会型理事会をオンラインで開催し「2021年度事業計画書」を一部の字句修正をした上で、「2021年度収支予算書」は原案通り承認した。

2020年度は新型コロナ感染拡大により、活動が大幅に制限されるとともに、従来から委託事業も激減し、協会の財政状況は悪化した。その中で、昨年度から導入したボランティア事務局体制を継続するとともに、事務局費を切り詰めるとともに、持続化給付金や家賃補助に加え、会員の皆様のご協力による寄付金の増額によって、何とか財政を維持することができたといえる。2021年度も、まだ、コロナ禍の終息が見通せない中、2020年度と比べて、収入・支出とも約500万円減を

想定した予算となっている。

2021年度の事業計画の特徴をまとめると以下ようになる(全文はホームページに掲載)。

- 1.新型コロナウイルスの感染拡大で多くの講座や一部の観察会が中止を余儀なくされた2020年度の反省も踏まえ、募集人数を減らすとともに、十分な対策を行うことで、活動を活性化させていく。
- 2.従来から取り組んでいる調査活動や保全活動を継続するとともに、特に夢洲の生物調査に基づき、絶滅危惧種コアジサシの繁殖・保護をめざす活動に2021年度も取り組む。
- 3.ビジョン委員会の提起で始まった各種のプロジェクトは3年目を向かえたのでいったん終了し、2021年度からは軌道に乗っている活動については、従来の協会活動の

中に位置づけて継続する。

- 4.ボランティア事務局体制を継続するが、若い人材の育成をめざして、将来の協会活動であるべき事務局体制の検討と具体的計画の立案を行い、可能な部分から実施する。
- 5.2021年度からは法人の所管庁が大阪府から内閣府に移行するので、それに対応して事業の拡大に向けて計画の検討を進めていく。また、2021年度の収支予算案の概要を下表に示した。2020年度当初と比べ、委託事業の減少が予想され、収益の事業費を約500万円減額した。それに伴って経常費用の事業費も減額となるが、管理費を切り詰めて寄付金などの増加を見込め、昨年のように予備費をおくことはできず、余裕のない状態が続く。皆様のご協力をお願いしたい。

2021年度 収支予算案 (配賦後) (単位:円)

	2021年度予算	2020年度予算	対20年度増減
一般正味財産増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	3,800,000	3,726,000	74,000
事業収益	10,690,000	15,960,000	-5,270,000
受取補助金等	1,000,000	800,000	200,000
受取寄付金	1,000,000	700,000	300,000
雑収	100,000	300,000	-200,000
有価証券利息	110,000	112,000	-2,000
経常収益計	16,700,000	21,598,000	-4,898,000
(2) 経常費用			
事業費	14,909,000	19,309,900	-4,400,900
管理費	1,791,000	2,288,100	-497,100
予備費	0	480,000	-480,000
経常費用計	16,700,000	21,598,000	-4,898,000
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0